

デジタルドリル×朝学習『思永システム』で“自主学習力”を育成



北九州市立思永中学校

創立 昭和22年

学級数 19

生徒数 665人

北九州市立思永中学校は、小倉城三の丸跡に建てられており、小倉藩の藩校「思永館」が存在していた場所でもあるという歴史深い学校である。

思永中学校は、GIGAスクール構想で子ども達1人1人に配備されたタブレットPCを積極的に活用している。

ICTの活用促進と学力向上のために、デジタルドリルの「スマイルネクスト ドリル(*)」を利用。

(※)以降、ネクストドリルと記載

今回は、思永中学校独自の朝学習を見学し、同校研究主任 北崎 靖生教諭にお話を伺った。

✔ 思永システム：朝学習での活用（奇数クラス・偶数クラス日替わりでネクストドリルを利用）

1年生

- 朝学習レベル①

✓ 全員同じ課題を実施

2年生

- 朝学習レベル②

✓ 単元 / 難易度別に複数の課題を配信

→自分が苦手、課題と思っているところを自身で選択して学習。

3年生

- 朝学習レベル③

✓ 学習方法(紙・デジタル)、単元を全て自分で決める

→自主性を育むために。受験を意識した自学習の実施。

✔ ネクストドリル活用ポイント

『思永システム』に沿って、主に朝学習で活用。

教科書準拠で操作も簡単なので、先生から配付された課題を解くだけでなく、自分で問題を選んで学ぶことも簡単。

先生

学習前

配付する

教科・単元を設定して課題を配付



課題名: 11月1日 朝学習の課題

参加者: 2年1組(50)3年1組

教科・単元: 数学 2年 1章 式の計算 1節 1章 式の計算の章末(1)

期限: 日付 時間

キャンセル 下書き保存 配付

学習中

リアルタイムで取り組み状況を確認

取り組み状況をリアルタイムで把握



学習後・放課後

学習状況の確認

教科担当とクラス担任が連絡を取り合い、生徒のフォローを実施



※画面ショットはサンプル画像です

生徒

学習中

課題から問題を選択

学年によって学び方は変化



最適な出題形式

手書き解答



最適な出題形式

穴埋め・線つなぎ



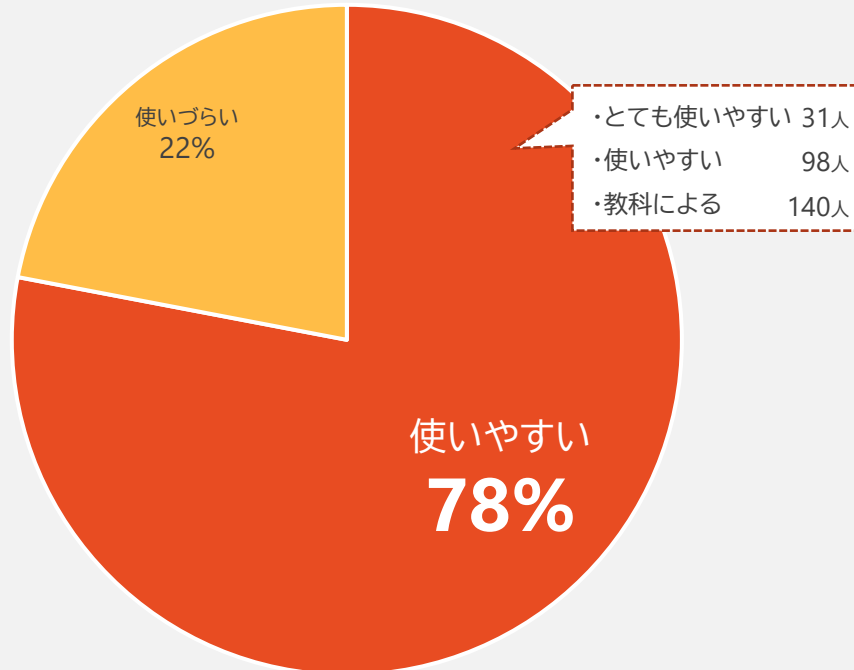
タブレットの強み

分からない問題はwebで確認

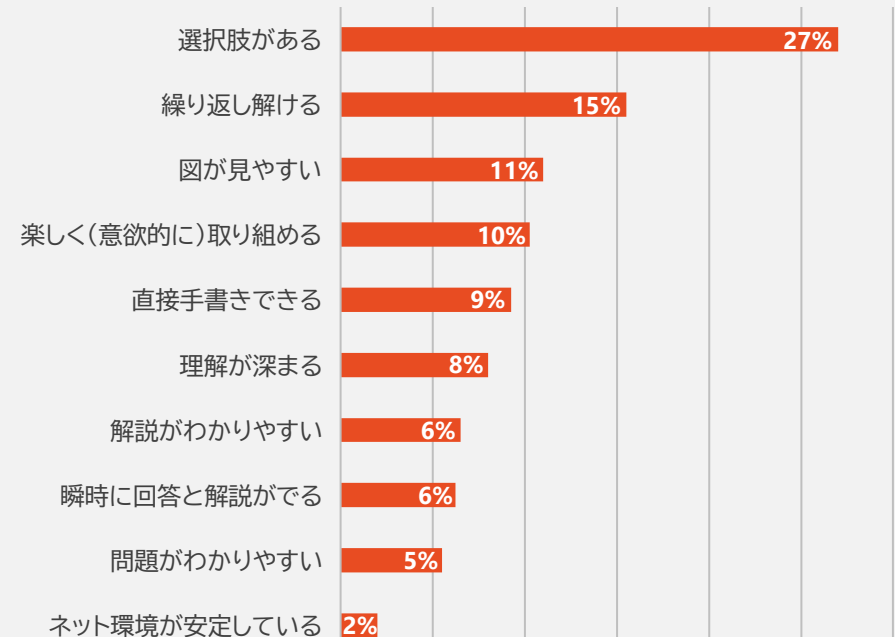


✓ ネクストドリルを使った生徒へのアンケート (北九州市立思永中学校3年生216人)

「ネクストドリル」は使いやすいですか？



使いやすい理由

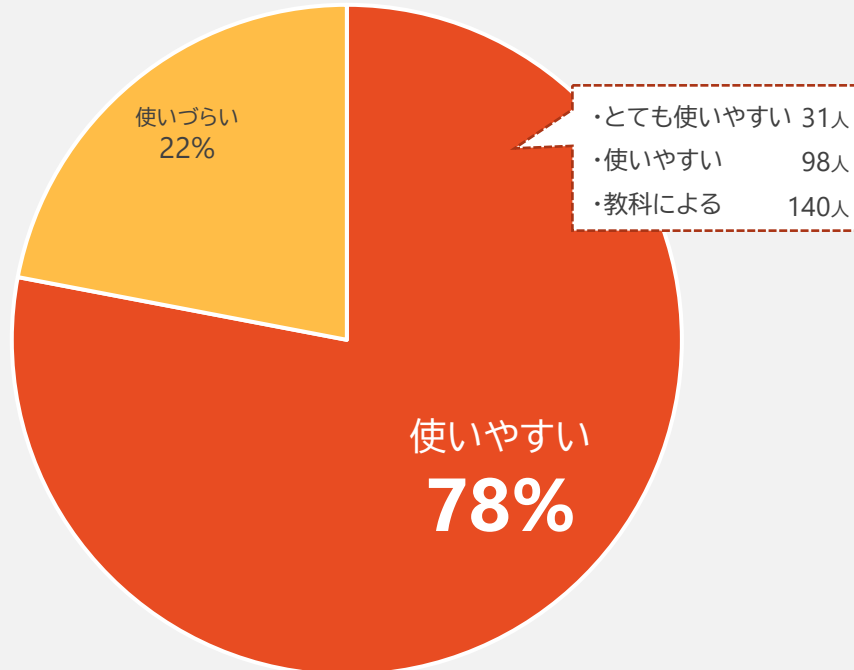


約8割の生徒が使いやすいと回答。(教科によるを含む)

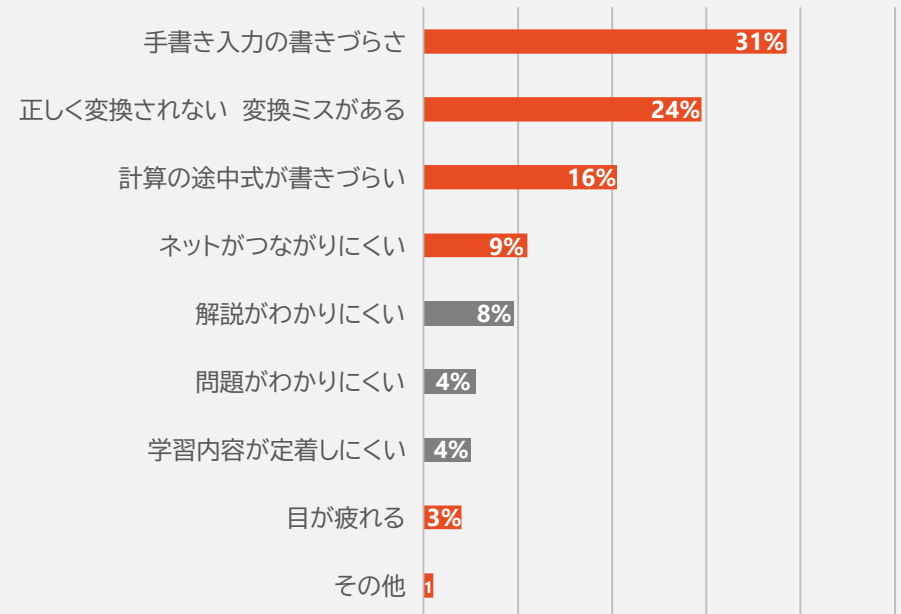
ネクストドリルの特長である、適切な出題形式やシンプルなUI、問題の質などが評価されている。

✔ ネクストドリルを使った生徒へのアンケート (北九州市立思永中学校3年生216人)

「ネクストドリル」は使いやすいですか？



使いづらい理由



使いづらいと回答した22%の生徒に理由をヒアリング。

手書きしづらい、ネットにつながりやすいなど**端末・環境要因が84%**と大部分を占めている。(上記棒グラフの赤項目)

ネクストドリル要因で使いづらい感じているのは16%と少数だった。

環境要因を除くと、**95%以上の生徒がネクストドリルを”使いやすい”**と感じていたと考えられる。

✓ 先生の声



北九州市立思永中学校
研究主任
北崎 靖生教諭

【ネクストドリルの良い点】

まず、途中式などを含めた学習の履歴を見取れる点です。
1人1人個別の使用時間と正答率、クラス単位での正答率がハッキリ分かるところが良いです。
教科担当の先生とクラス担任の先生が確認しながら連絡を取り合い、できていなかった生徒のフォローをすることが可能になっています。
様々な解答形式や手書きはクオリティが高いと思います。
生徒が主体的に学習をする『思永システム』にも適しています。
教科書準拠なので、各教科担当の先生が課題を配付するのも手間がかかりません。
授業で取り組んでいるページ数に該当する問題を選択すれば完了です。
UIがシンプルで操作が簡単なので、先生達の利用に対するハードルが下がりました。
その結果、ICT活用に対するベクトルが同じ方向に向き利用率が上がってきています。
以前、導入していたデジタルドリルは教科書準拠ではなかったので、課題の作成/配付に一手間かかっていました。

【他の先生へ】

【ネクストドリルのオススメポイント】

- ・費用がリーズナブル。(以前導入していたドリルは費用が高くネックでした)
- ・問題の質が良い。しっかりと作られている点が評価できます。

【デジタルドリル使用前と後で変わったこと】

まずは、紙の印刷が減りました。もちろんゼロにはなっていませんが負担は軽減されました。
また、先生達がタブレットの扱いに慣れてきたと思います。
生徒目線で言うと、デジタルドリルの良さと紙プリントの良さを肌感覚で分かってきていると感じます。「この学習はデジタルの方が良い」「この学習は紙の方が良い」という感じです。
自分のレベルによって、取り組み方を主体的に選ぶ“主体性”が上がってきました。
「主体性を育む」をテーマに取り組んできたので、少しずつ成果が出ています。



スマイルネクスト

小中学校向け学習クラウド